

環境経営レポート

第43期：2023.10～2024.9



発行 2024年10月25日 No.17

SANKO

三幸エンジニアリング株式会社

目次

1, 取組の対象組織・活動の明確化	2
2, 代表者による経営における課題とチャンスの明確化.....	3
3, 環境経営方針	4
4, 環境経営目標・経営計画.....	5
5, 実施体制.....	7
6, 環境経営目標の達成状況と取組内容.....	8
7, 環境活動の取組結果の評価、問題点の是正処置・予防処置	10
8, 次年度(44期)環境経営目標・環境経営計画	13
9, 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無.....	14
10, 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果	15

1. 取組の対象組織・活動の明確化

社 名 : 三幸エンジニアリング株式会社

創 業 : 昭和 56 年 2 月 1 日

役 員 : 代表取締役 青木兼弘

取締役 鳥井文夫 取締役 黒井正春

資 本 金 : 授權資本 2400 万円 払込資本 1000 万円

所 在 地 : 本 社 〒421-0112 静岡県静岡市駿河区東新田 4-7-24

環境担当・外部よりの苦情要望受付窓口

環境管理責任者 黒山 幸浩 (クロヤマ ユキヒロ)

TEL:054-257-2828 FAX:054-258-7296

Email : kuroyama@sankoeng.co.jp

URL<http://www.sankoeng.co.jp/>

事業内容 : 電気機械器具製造業、電子機器設計業務(音響製品、P 店用機器、ゲーム機、精算機、券売機、省力化機器等)

決 算 月 : 9 月 第 43 期実績 174, 450 千円 (2023 年 10 月~2024 年 9 月)

従業員数 : 26 名

建 物 : 第一工場 株式会社小糸製作所様・矢崎計器株式会社様 生産ライン

第二工場 設計開発室 株式会社エルコム様・自社製品生産ライン

事務所 総務、経理部門

延床面積 940㎡

取引銀行 : 静岡銀行用宗支店 しずおか焼津信用金庫東新田支店 静岡信用金庫東新田支店

関連会社 : 三幸無線株式会社

主要得意先 : 株式会社小糸製作所様 矢崎計器株式会社様 株式会社エルコム様

対象期間 : 2023 年 10 月 1 日~2024 年 9 月 30 日

発行日 : 2024 年 10 月 25 日

対象組織 : 三幸エンジニアリング株式会社 本社

対象範囲 : 電気機械器具製造業、電子機器設計業務

2. 代表者による経営における課題とチャンスの明確化

2-1 事業内容

電気電子機械器具設計製造

第一工場：株式会社小糸製作所様・矢崎計器株式会社様向け量産工場

株式会社小糸製作所様…トラック（小型・中型）用バックブザー生産

矢崎計器株式会社様…外部操作器、アルコールチェッカー等

第二工場：株式会社エルコム様…券売機、精算機、両替機

設計開発室：電気電子機械器具設計、筐体設計、試作機製作、検査

2-2 事業を取り巻く状況

内部・外部の課題

外部	材料費、エネルギー費の高騰（原価高騰） 顧客注文数の不安定さにより生産計画が立てにくい 紙幣識別機の納期長期化により生産計画が立てにくい
内部	営業力不足により新規開拓が難しい 高齢化と技術伝承の難しさ 新技術への対応の難しさ

内部・外部のチャンス

外部	新札対応による受注増加 決済端末を搭載した新機種への更新 新製品の受注量増加
内部	新社内システムの稼働により間接業務時間の削減 新規オーダーの受注増加

2-3 事業と環境のかかわり

- ① オリジナル製品の開発を進めることにより、設計段階から環境に配慮した部品の選定、部品点数の削減を配慮した製品を製作することが可能になる。
- ② オリジナル製品の製造を手掛けることにより年間作業を平準化し、品質向上、在庫の適正管理、エネルギー使用の平準化などを推進することが可能になる。
- ③ 生産段階で発生する半田くずや金属片、梱包に使用される段ボール等の古紙、使用済み溶剤の処理を適切な方法（リサイクル）で行う。
- ④ 事業活動に伴う使用電力が二酸化炭素排出量削減への大きな影響として関わりがある。
- ⑤ 設備の更新を続けて環境に優しい製造環境を整えていく。

3. 環境経営方針

【基本理念】

三幸エンジニアリング株式会社は、電子機器・車載用電子基板等の設計製造を通し、資源の有限性を認識し、環境負荷の低減に努めます。日々、一人々々による環境への心配りに努め、環境保全に注力します。世代交代を図り新規顧客開拓努めながら社業発展を目標に、お客様・従業員・社会全体の三つの幸せを求めます。

【行動指針】

当社は、社員一人々々の参加で、以下に掲げる環境負荷低減活動に取り組み『人と自然との調和』を実現するための環境経営をすすめます。

- 1 『二酸化炭素排出量削減』のため『電力、化石燃料』等の省エネルギー化対策に取り組み、地球温暖化防止に努めます。
- 2 『産業廃棄物削減』のため省資源・リサイクル化を推進します。
- 3 『環境関連法規等の遵守』に取り組み、環境保全に努めます。
- 4 グリーン購入、環境負荷の少ない自社製品の開発を推進します。
- 5 化学物質の有害性を認識し、使用量の把握・削減に取り組みます。
- 6 得意先不良ゼロを目指し工程内のムダを無くします。
- 7 環境経営の継続的改善を実施する。

以上の環境経営方針は全社員に周知すると共に、環境経営レポートとして公開します。

制定年月日 2007年5月1日

改定年月日 2018年6月1日

三幸エンジニアリング株式会社

代表取締役 青木 兼弘

4. 環境経営目標・経営計画

作成 2023年10月27日

4-1 43期の環境経営目標

1. 二酸化炭素排出量削減目標

中期目標 第40期比で第43期に3%以上削減 第43期目標 第40期比3%以上削減

2. 廃棄物削減目標

中期目標 第40期比で第43期に3%以上削減 第43期目標 第40期比3%以上削減

3. 総排水量削減目標

日常の節水活動に務める

4. 化学物質使用量削減目標

化学物質使用量を把握し、化学物質の有害性を認識しよう

5. グリーン購入の目標

必要なグリーン購入の対象製品を探し選定し、少しでも購入しよう

6. 自社製品の環境配慮に関する目標

リサイクルしやすい製品設計を目指そう

有害物質の含有量の少ない製品設計を目指そう

項目		単位	基準期間	運用期間	
			40期	43期	
			基準値	目標削減率	目標値
二酸化炭素排出量		kg-CO2	29,675	-3%	28,785
エネルギー	電力	kWh	59,648	-3%	57,859
	ガソリン	L	990.7	-3%	961.0
	プロパンガス (LPG)	kg	20.907	※1	---
廃棄物産出量	産業廃棄物	t	3.576	※2	---
	一般廃棄物	kg	1,794.0	-3%	1,740.2
水使用量		---	※3	---	---
環境に配慮した製品づくり		件	---	---	1件以上

※1 お昼のお茶以外で使用しないため目標は設けず

※2 定期的な廃棄をしないため、削減努力とする

※3 地下水をトイレ、飲料水のみで使用しているため、削減努力とする

4-2 環境経営計画

環境活動項目		責任者	
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	1 不必要なアイドリングの禁止	竹村
		2 不要な荷物を積まない(1回/月チェックする)	
		3 急発進・急加速の禁止	
		4 効率的な配送ルートを選定	
		5 運転日報の記載・燃費確認(走行キロ数、給油量等)	
		6 同方向は相乗りの励行	
		7 低冷房運転の励行	
	空調等	1 エアコンの設定温度を夏季26以上℃、冬季20℃以下に設定	黒山
		2 クールビズ、ウォームビズの実施	
		3 空調フィルターの定期清掃(夏前、冬前 2回/年)	
		4 ブラインドを利用し外部の温度を可能な限り遮断する	
	ユーティリティー	1 天井照明の間引き	部門長
		2 製造工程の見直し	
		3 コンプレッサーのエア漏れチェック	
		4 未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他)	
		5 段取り時間の短縮	
		6 不良品の削減(不良件数目標0件)	
		7 5S活動の実施	
	廃棄物の削減	1 コピー用紙の両面使用	部門長
		2 通函の延命化の検討	
		3 廃プラスチックのリサイクル率向上	
水使用量の削減	1 洗車時の節水	黒山	
	2 水もれ点検の実施		
化学物質	1 使用化学物質のSDS入手	工場長	
	2 購入量・使用量の把握		
	3 使用量削減の検討		
	4 購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理方法の検討		
環境に配慮した製品づくり	1 環境に配慮した製品作りのテーマ検討	部門長	
	2 環境経営目標(数値目標)の設定検討		
	3 廃棄物の発生抑制のため、モデルチェンジの適合性に取り組むことを検討する		
環境経営の継続的改善(顧客満足度の向上)	1 顧客との環境コミュニケーション推進します。	黒山	
	2 顧客満足度の向上等を図ります		
	3 セミナー等に積極的に参加し環境経営の知識を高める		

5. 実施体制

制定 2007年5月1日 改定 2023年10月28日

組織図



【関係者の権限と役割】

代表取締役

- ① 環境経営全般に関する責任と権限
- ② 環境管理責任者の任命
- ③ 環境経営システムの運用に必要な経営資源の準備
- ④ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
- ⑤ 環境経営方針の制定及び改定
- ⑥ 環境経営システム全体の評価と見直し
- ⑦ 効率的な実施体制の構築と全従業員への周知

環境管理責任者

- ① 環境経営目標及び環境経営計画の作成
- ② 環境経営システム全般の運用と管理
- ③ 代表取締役への取組状況の報告
- ④ 環境経営レポートの作成

第一工場工場長、設計開発室室長、事務所

- ① 部門の環境経営計画の実施
- ② 部門データの集計
- ③ 部門の問題点把握と是正処置の実施
- ④ 部門の取組状況の環境管理責任者への報告
- ⑤ 部門の従業員教育

その他の従業員

- ① 自分の役割を守り、エコアクション 21 の活動を推進する

6. 環境経営目標の達成状況と取組内容

6-1 第43期(23.10~24.09)の実績

0.509kg-CO₂/kwh 適用 鈴与電力(令和4年度実績 令和5年12月22日公表 環境省)

0.457kg-CO₂/kwh 適用 ヤフーマーケティングジャパン(令和4年度実績 令和5年12月22日公表 環境省)

項目	単位	基準期間	運用期間					
		40期	43期				評価	
		基準値	目標削減率	目標値	実績値	実績削減率		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	29,675	-3%	28,785	33,952	14.4%	×	
エネルギー	電力	kWh	59,648	-3%	57,859	64,720	8.5%	×
	ガソリン	L	990.7	-3%	961.0	962.5	-2.8%	△
	プロパンガス(LPG)	kg	20,907	※1	---	20,079	---	---
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	3,576	※2	---	1,384	---	---
	一般廃棄物	kg	1,794.0	-3%	1,740.2	1,650.7	-8.0%	○
水使用量	---	※3	---	---	---	---	---	
環境に配慮した製品づくり	件	---	---	1件以上	1件	---	---	

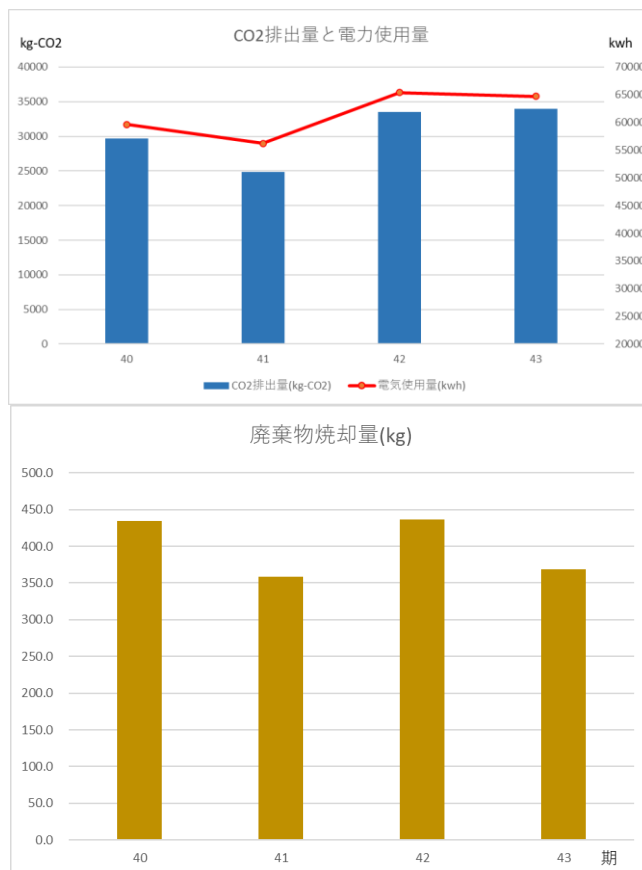
評価の判定 ○:よくできた △:まあまあできた ×:できなかった

※1 お昼のお茶以外で使用しないため目標は設けず

※2 定期的な廃棄をしないため、削減努力とする

※3 地下水をトイレ、飲料水のみで使用しているため、削減努力とする

過去4期のCO₂排出量、使用電力量、一般廃棄物トレンドグラフ



① 二酸化炭素排出量

当社の二酸化炭素排出量は電力使用量にて決まってしまうため、電力使用量の削減が出来なかったことが二酸化炭素排出量の削減に貢献できなかった要因である。しかし、42期比では-1.0%となっているため削減の努力はできている。

② エネルギー使用量

電力は大幅な目標超過をしてしまった。夏の暑さが長く厳しかったのも要因と考えられる。

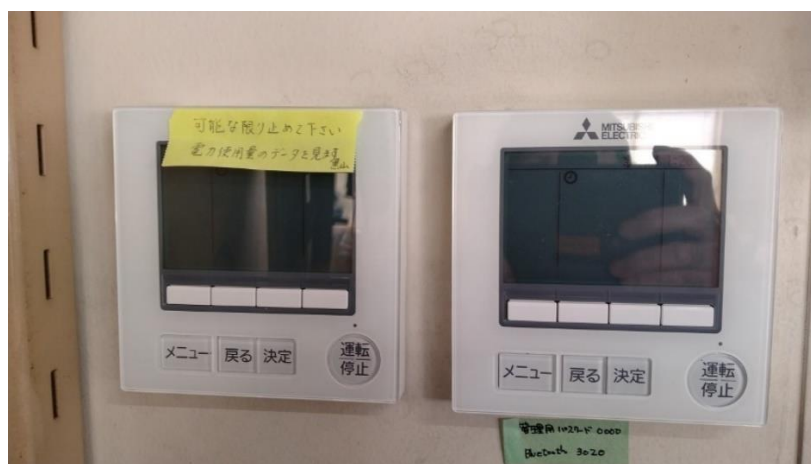
ガソリンは目標値に届かなかったが、42期比では-22.6%の削減ができているため削減努力は認められる。

③ 廃棄物排出量

一般廃棄物は-8.0%という大きな成果が得られた。ごみの少ない製品や部品の選択、紙類の資源化などの効果が出ていると考えられる。

④ その他

- ・ 設計開発室 2階エアコンの間引き運転



- ・ 設計開発室 2階エアコンに空調効果が改善するというファンをテスト的に取り付けてみた。



7. 環境活動の取組結果の評価、問題点の是正処置・予防処置

7-1 環境経営計画に対する活動の評価と次年度への取組

環境活動項目		責任者	評価	次年度への取組	
二酸化炭素の削減	エコドライブ	1 不必要なアイドリングの禁止	○	継続実施	
		2 不要な荷物を積まない(1回/月チェックする)	○	継続実施	
		3 急発進・急加速の禁止	○	継続実施	
		4 効率的な配送ルートを選定	○	継続実施	
		5 運転日報の記載・燃費確認(走行キロ数、給油量等)	○	継続実施	
		6 同方向は相乗りの励行	○	継続実施	
		7 低冷房運転の励行	○	継続実施	
	空調等	1 エアコンの設定温度を夏季26以上°C、冬季20°C以下に設定	黒山	△	次年度重点目標
		2 クールビズ、ウォームビズの実施	○	継続実施	
		3 空調フィルターの定期清掃(夏前、冬前 2回/年)	△	継続実施	
		4 フラインドを利用し外部の温度を可能な限り遮断する	○	継続実施	
	ユーティリティ	1 天井照明の間引き	部門長	○	継続実施
		2 製造工程の見直し		△	継続実施
		3 コンプレッサのエア漏れチェック		○	次年度重点目標
4 未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他)		△		次年度取組	
5 段取り時間の短縮		○		継続実施	
6 不良品の削減(不良件数目標0件)		○		継続実施	
7 5S活動の実施		△		次年度重点目標	
廃棄物の削減	1 コピー用紙の両面使用	部門長	○	継続実施	
	2 通函の延命化の検討		△	継続実施	
	3 廃プラスチックのリサイクル率向上		×	次年度重点目標	
水使用量の削減	1 洗車時の節水	黒山	○	継続実施	
	2 水もれ点検の実施		○	継続実施	
化学物質	1 使用化学物質のSDS入手	工場長	○	継続実施	
	2 購入量・使用量の把握		○	継続実施	
	3 使用量削減の検討		×	次年度取組	
	4 購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理方法の検討		○	継続実施	
環境に配慮した製品づくり	1 環境に配慮した製品作りのテーマ検討	部門長	△	継続実施	
	2 環境経営目標(数値目標)の設定検討		○	継続実施	
	3 廃棄物の発生抑制のため、モデルチェンジの適合性に取り組むことを検討する		○	継続実施	
環境経営の継続的改善(顧客満足度の向上)	1 顧客との環境コミュニケーション推進	黒山	○	継続実施	
	2 顧客満足度の向上等を図る		○	継続実施	
	3 セミナー等に積極的に参加し環境経営の知識を高める		△	継続実施	

評価の判定 ○:よくできた △:まあまあできた ×:できなかった

7-2 環境活動の取組結果の評価

①エコドライブについて

乗車毎の運転日誌を作成し、エコドライブ 8 か条を守り大幅なガソリン使用量の削減ができた。更に 44 期はエコドライブキャンペーンに参加して、通勤時にもエコ運転を意識するようにする。

② 空調の管理について

夏季は 26℃以上、冬季は 20℃以下と決めて活動したが、エアコンの設定温度≒室温とはならず、無理の無い範囲で空調温度の管理を行った。

③ユーティリティについて

照明の間引き、昼休みの消灯などはしっかりとできた。

しかし、未使用設備の電源 OFF については、まだ不要なパソコンの通電等が散見された。常時通電不要のパソコンは帰社時に OFF する習慣を付けるようにしていく。5S 活動についても進展がなく 43 期を終えたが、44 期は既に産業廃棄物業者に依頼して分別回収を計画している。

⑤ 廃棄物の削減について

一般ごみの量が大幅に削減してきたことは評価できるが、廃プラスチックの処理方法について前任からの引継ぎが不完全で廃プラ処理が実施できなかった。ユーティリティの項で記載した通り、44 期に産業廃棄物処理の計画をした。

⑤水使用量の削減

第一工場内で水道管の漏れが見つかり即日業者による修理を行った。

⑥化学物質の使用について

使用量を毎月把握しているが、削減に対する計画が見られなかった。44 期は少しでも使用量を減らす具体的な活動を計画し試みる。

⑦環境に配慮した製品づくり

新製品に関しては可能な限り、RoHS 製品を使用する設計していることを確認できた。今後、開発する製品にも RoHS 製品を意識して部品の選定を行う。

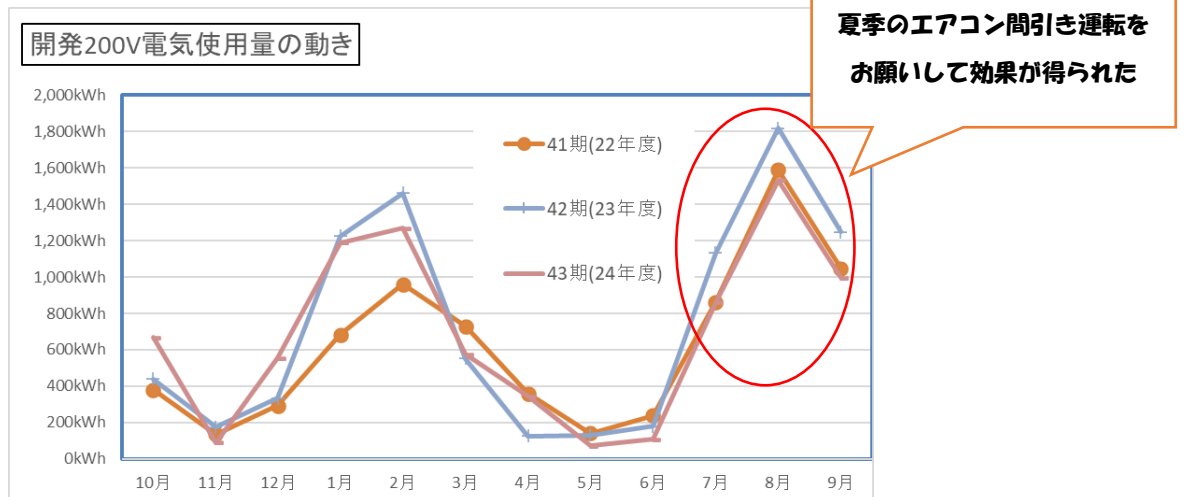
⑧環境経営への継続的な改善

SDGs のセミナーなどを積極的に受講する、取引先への工場見学などを経て更なる環境経営に関する知識を増やして、当社がお客様から求められる環境経営への取組みへフィードバックしていきたい。

7-3 問題点の是正処置・予防処置

- ① 42期は設計開発室のエアコンを省エネ型に更新したにも関わらず節電効果が期待できなかった。可能な限りエアコンの間引き運転を行い、結果43期は42期と比較して-6.4%の年間電力使用量を削減できた。

よって、是正処置は有効と判断した。



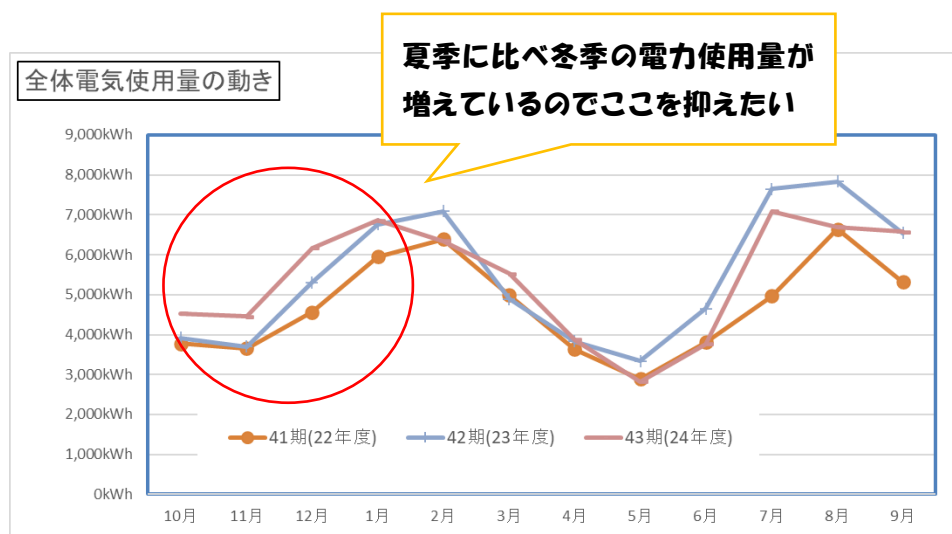
- ② 産廃の処理方法について前任から引継ができていなかったため、廃プラなどが大量に溜まってしまった。

既に産廃処理業者を依頼して、溜まった廃プラや資源回収などを計画した。以後は定期的に廃プラの量を確認して、適切な処理を行うこととした。

- ③ 冬季の電力使用量の削減

全社電気使用量を観察すると冬季の電力使用量が増えていることが判明した。この冬場の電力使用量を抑えることができれば、更なる節電が期待できる。ただし、生産工程や気候環境の悪化などは無視できないので、慎重に対応をする。

事務所のエアコンが更新されたため、ここでも電力使用料を抑える効果を期待できる。



8. 次年度(44期)環境経営目標・環境経営計画 作成 2024.10.25

8-1. 二酸化炭素排出量削減目標

中期目標 第43期比で第46期3%以上削減

短期目標 第44期は第43期比1%以上削減(僅かでも必ず削減しよう)

- ① エコドライブの推進
- ② エアコン運用の徹底
- ③ 不要箇所の消灯徹底
- ④ 未使用設備の電源OFF
- ⑤ 5S活動の実施

8-2. 廃棄物削減目標

中期目標 第43期比で第46期に3%以上削減

短期目標 第44期は第43期比1%以上削減(僅かでも必ず削減しよう)

- ① 古紙分別
- ② 段ボールの再利用
- ③ 梱包材の再利用
- ④ 資料の両面印刷・裏紙活用
- ⑤ 廃プラスチックのリサイクル率向上
- ⑥ 化学物質使用量削減の検討

8-3. その他

節水・グリーン購入・自社製品の環境配慮は前期同様に努力を実施する。

8-4. 44期 中期環境経営目標

項目	単位	基準期間	運用期間		運用期間		運用期間		
		43期	44期		45期		46期		
		基準値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	33,952	-1%	33,612	-2%	33,273	-3%	32,933	
エネルギー	電力	kWh	64,720	-1%	64,073	-2%	63,426	-3%	62,778
	ガソリン	L	962.5	-1%	952.9	-2%	943.3	-3%	933.6
	プロパンガス(LPG)	kg	20,079 ※1		---	※1	---	※1	---
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	1,384 ※2		---	※2	---	※2	---
	一般廃棄物	kg	1,650.7	-1%	1,634.2	-2%	1,617.7	-3%	1,601.2
水使用量	---	※3		---		---		---	
環境に配慮した製品づくり	件	1件		1件以上		1件以上		1件以上	

※1 お昼のお茶以外で使用しないため目標は設けず

※2 定期的な廃棄をしないため、削減努力とする

※3 地下水をトイレ、飲料水のみで使用しているため、削減努力とする

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法律・条例の名称	遵守すべき内容 (環境関連要求事項)	担当部署	法令等の適用を受ける設備、行為	遵守評価記録(内容、合否、評価： ○、△、×)
廃棄物処理法	適正処理、再生利用等減量努力	事業所全体	委託契約書(許可証コピー)、保管施設(廃プラスチック類、他)	○
	産業廃棄物処理業者と委託契約	総務		
	産業廃棄物保管場所の適正保管	第一工場		
	産業廃棄物管理表の交付と管理	総務		
	manifests起票・保管(5年)	総務		
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	産廃業者の現地確認など 産業廃棄物処理責任者：黒山幸浩	事業所全体		○
静岡県廃棄物の処理及び減量に関する条例	適正処理、再生利用等減量努力 指定袋使用による手数料の支払	事業所全体		○
フロン排出抑制法	エアコンの簡易点検・定期点検実施 廃棄時フロン回収業者に引き渡し	事業所全体	エアコン・室外機15台 業務用エアコン(委託確認書、引き取り証明書)	○
自動車リサイクル法	リサイクル料金の支払、登録業者への廃車の引渡し	事業所全体	登録自動車(同上)	該当無し
家電リサイクル法	リサイクル料金の支払	事業所全体	家電4品(同上)	○
資源有効利用促進法	パソコンリサイクル促進	事業所全体	パソコン(同上)	○
労働安全衛生法	有機則…アルコール洗浄室の換気 鉛則…半田槽の換気 第二種圧力容器の自主点検	第一工場	噴流槽、静止槽、手半田槽 防湿剤塗布室 アルコール洗浄室 圧力容器自主点検記録作成	○

上記法律・条令に関しすべて遵守評価を行い、遵守点検結果、違反はありません。

外部からの環境上などの指摘、苦情、訴訟等は過去3年間ありません。

遵守評価日 2024年10月25日

10. 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

2024年10月25日

10-1 見直し関連情報

見直し 関連 情報	項目		確認	：（必要に応じて評価・コメント記載）
	1	エコアクション21文書	<input checked="" type="checkbox"/>	記録・文書として作成しました。
	2	環境経営目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/>	CO2排出量は増えてしまいました。
	3	環境経営計画及び取り組み実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組みます
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	記録に記載いたしました。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	特に問題ありませんでした。
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	是正処置は有効でした。
	7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組みます。
	8	その他（ ）	<input type="checkbox"/>	

見直し項目		変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	無し	
2	環境経営目標	無し	
3	環境経営計画	有り	未達項目は手段を変更して計画する
4	実施体制	無し	
5	その他のシステム要素	無し	
6	その他（外部への対応）	無し	

10-2 代表者による全体評価

- 43期は前期よりやや売上数字は落ちたが概ね良い数字であった。CO2削減を目指したが、結果は散々な結果となってしまいました。
しかし、廃棄物の削減は貢献できたと自負しています。
- 環境管理責任者の交代で不慣れな面も見られたが、44期以降は会社にも慣れて環境管理を上手くやってもらいたい。
- 自社オリジナル製品の開発を進め、エコに配慮した部品選定、部品点数の削減をして環境に配慮した経営を続けていきます。
- 事務所のエアコンを更新したため、更なる節電効果を期待しています。

三幸エンジニアリング(株)代表取締役 青木 兼弘